

牛久：学校周辺に見る自然

第58号

ひたち野みずべ公園(ひたち野うしく小)

2021年3月12日発行

< 卵で越冬する虫たち >

気温9～10℃と、1月にしては少し暖かい^{あたた}25、26日に、ひたち野うしく小4年生とみずべ公園を歩いてきました。テーマは、生きものたちの冬越し^{ふゆご}です。

まずは、卵^{たまご}で冬越し^{ふゆご}をする虫たちを紹介^{しょうかい}しましょう。



カマキリの卵^{らん}のう^うが、あちこちで見られました。卵^{らん}のう^うは、たくさん^{たまたま}の卵^{たまご}がさらに発泡スチロール^{はっぼう}のようなもので包まれ、より寒さや乾燥に耐え、雨風もしのげるようにできています。あちこちでと言いましたが、これでもいつもの年よりはだいぶ少なく、しかもハラビロカマキリばかりでオオカマキリやコカマキリ^{かんそう}のものは1つも見つけられません^たでした。中には、あずまやの石柱^{せきちゆう}に産まれたものもありましたね。カマキリは、種類によって生活する場所^{ちが}が違います。図書の本などで調べ、他のカマキリが少なくな^{げんいん}ってしまった原因を考えてみましょう。



いろいろな木の枝や幹^{えだ みき}に産みつけられた、ハラビロカマキリの卵^{らん}のう^う。中には石柱^{せきちゆう}に産まれたものもあり(下左)、クモに食べられたり(下右)、鳥に食べられたりするものもある。



マイマイガの卵らんかい
も、いつもよりは少ないもの、けっこう見つけてくれました。卵らんかいは、たくさんたまごの卵もうふが毛布つのような毛つに包まれています。

イヌシデの幹みきに産うみつけられた、マイマイガの卵らんかい（上2枚）。
さくらの幹みきに産うまれたものうもあり（下左）、羽化殻うがらも見られた（下右）。



そして、ジョロウグモの卵らんのうもいくつか見つけました。やはりたくさんたまごの卵わたが、綿つのようなものに包まれています。

卵たまごはカプセルのようで、そのものが寒かんさや乾かん燥そうに強いと思えますが、さらわたに綿わたや毛はっ、発泡スチロールはっほうのようなもので包つまれて、厳きびしい環かん境きょうに耐たえられるようになっていたまごるのですね。卵たまごってすごい！【理科支援員：宮内】



クヌギの幹みきに産うみつけられた、ジョロウグモの卵らんのう。